CIGRE SC C2　定例会議ほか参加

エネルギア総合研究所　系統・情報通信担当　杉原　弘章

CIGREは電力機器，送変電，電力系統等，大電力に関する技術的問題を討議する国際会議であり，フランスのパリを本部として1921年に設立された。日本からも各電力，メーカ，大学等が国内委員会を組織して参加している。CIGREは2年に1度偶数年に全体会議としてのパリ大会を実施し，SC（Study Committee）と呼ばれる各技術委員会（分科会）もこれに合わせてそれぞれの定例会議を行っているが，パリ大会のない奇数年にはCIGRE関係の会議等に合わせて各SCが単独に定例会議を実施している。

2007年6月18日～6月20日の間，バルト3国の1つ，エストニアの首都タリンにおいて「電力系統の信頼度」をテーマとしてCIGRE北欧地域会議が開催された。これにあわせてCIGRE SC C2（系統運用・制御に関する技術委員会）の定例会議ほかも開催され，同SC国内委員長の筆者が参加した。

（1）北欧地域会議（NRCC REGIONAL MEETING）

NRCCは北欧5か国が中心となって組織している地域の会議体で，エストニアを含むバルト3国もメンバーに加わる予定である。今回はNRCCとエストニアの協力により「電力系統の信頼度」についてタリン工科大学において発表と議論の場が提供され，以下の3つのセッションが開催された。

○Market and System Security Aspects on Large or Dispersed Generation（大規模あるいは分散型電源系統の市場と信頼度）
電力取引市場の調査ー組織と責任分担ほか6件の論文発表と議論が行われた。

○Interconnections for Increasing the Security of the Power System（連系による系統信頼度の向上）
ESLINK（エストニアと北欧系統の自励式変換器による直流連系）ほか7件の論文発表と議論が行われた。

○Method and Tools for Managing System Security and Black-Outs（系統信頼度維持と大規模停電防止の手法とツール）
大規模停電防止と自動復旧，韓国電力系統運用の確率的信頼度評価ほか8件の論文発表と議論が行われた。

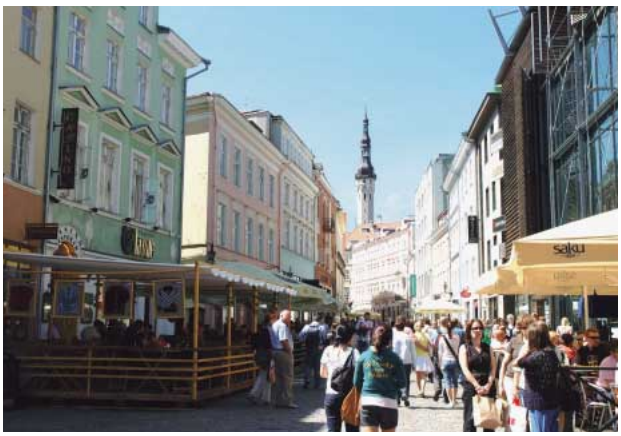
ESLINKはバルト地域と北欧を結ぶはじめての連系線（105km，一部海底ケーブル）であると同時に，自励式変換器（±150kV，350MW）による直流送電であるところが注目される。

（2）SC C2定例会議

地域会議に先立つ18日㈪午前中に行われ，SCの内部構成，活動の進め方，来年のパリ大会の準備などについて協議した。当SCでは内部の構成について改変が行われたばかりであり，新しく作られた各WA（Working Area）について代表者から今後の検討内容等について提案があり討議を行った。

（3）WG C2／C5－05定例会議

本WGは自由化された電力市場における系統運用者の業務について調査を行っている。16日㈯に行われた会議では，今回の地域会議において発表予定の本WGの調査概要や来年のパリ大会で発表する論文の準備などについて協議した。



にぎわう休日のタリン旧市街

北欧地域会議の夕食会にて